

<2025年1月4日>

原油価格は wti が 70 をはさんで上下するというパターンが崩れ先週金曜日から毎日上昇し数ヶ月続いたレンジ相場の上限も破りました。

需給関係では米国原油在庫が 6 週連続減少でしたが製品在庫が増えているなど強い材料ではなく、金融リスクオンやトランプ政権によるロシアやイランへの制裁強化懸念および移動平均超えといったテクニカルな面が上昇の背景でした。原油市況は現物需給が最も強く影響しますが直接的には先物市場の需給つまり売り買いにより価格変動します。先物なので実際に需給が変動しなくても変動する気配で動くし、金融商品なので株式など他の金融商品の影響も受けるし、先の需給の予想因子としての経済指標にも影響を受けます。実際に需給下変動しなくても変動する可能性のある地政学リスクにも影響を受けます。

今週は足元の需給ではなく他の要因で動きましたがこのような動きは一時的なもので終わることが多いのでさらなる上昇は考えにくいです。

ガザ地区におけるイスラエルの攻撃は強くなり停戦交渉中とは思えないものです。停戦間際だからイスラエルはやれる間にやっつけてしまおうとしていると考える人もいるでしょう。トランプの大統領就任が近づいておりトランプはハマ스에強い言葉で停戦を迫っておりイスラエルにも圧力をかけていると思われるからです。しかし、イスラエルが停戦前向き姿勢を見せていますがハマスが原因で停戦できなかったといういつもの筋書きに持っていこうとしているように鈴木には感じます。

サウジアラビアとシリア新政権が接近しました。シリア新政権の現実路線はなかなかのものと感じます。指導者はテロリスト指定されてきた人物ですが、明治の元勳の中には若き日には異人切りに属していた方もいるらしく、テロリストが偉大な政治家になる事例がこのようにあるので、シリアの指導者にも期待したい。

<2025年1月11日>

今週の原油価格は大幅に続伸しました。木曜日までは前週末とほぼ同じでしたが金曜日にバイデン政権のロシア制裁強化と厳冬で大きく上昇しました。

前回週報で続伸はないだろうと述べましたが外れました。昨年末にトランプは原油価格を引き上げるようなロシア制裁はしないだろうと述べましたがバイデンが退任前にやることは予想してなく迂闊でした。

問題はトランプが制裁をどうするかです。ウクライナ戦争終結を 24 時間から半年に延長した彼ですが制裁は強化せずウクライナに譲歩を迫ると思います。バイデンもそう思ったからこのタイミングで強化したのでしょうか。

強化したものは緩和するかどうか。理由付けするなら、原油価格上昇はインフレを引き起こし経済成長の阻害となります、ですがその場合イラン制裁を強化しづらくなります。もっともダブルスタンダードや朝令暮改はトランプの得意とすることなので何があっても不思議ではありません。

ガザ戦争は停戦交渉中です進展しているとの報道多いですが核心部分では相変わらず平行線です。イスラエルはハマスのせいにはしますが中東の仲介国はイスラエルが原因と述べています。

イスラエルはガザにパレスチナ人が住めなくするのが目的です。ちなみに西岸は欲しくて入植を加速していますがガザは欲しくないようです。エジプトも。

領土的野心の強いトランプですが、ガザが欲しいとは言わないでしょう。いやまさかがトランプの真骨頂だから……。ちなみにホテル建てたいみたいなことを言っていた記事があったような記憶があります。

<2025年1月18日>

イスラエルとハマスが 6 週間の停戦と人質囚人交換に合意しました。バイデンとトランプ両方が貢献を自賛していますが、バイデン側はハマス説得にトランプ側はイスラエル説得に成果あったと思います。19 日発効まで何があるか、発効してもレバノンみたいに戦闘再開しないか、恒久停戦までの最終段階に行けるのか、全く不透明ですが一時停戦で犠牲者が出なくなることを祈ります。

立山先生はイスラエル側にもハマス側にも合意した背景理由を 4 点挙げていて、うち鈴木が強く共感した 2 点ずつ述べます。イスラエルには兵士の犠牲心身の疲労とトランプ政権発足間近による圧力。ハマスにはガザでのパレスチナ人からの支持率低下と今回の停戦合意から最終段階までの道筋がハマス排除ではないことです。

しかしこのハマス排除ではないというのはバイデン政権が進めたものでイスラエルがどう理解しているか、トランプが引き継ぐのか不透明です。

ブリンケン 国務長官が退任インタビューで最終段階案に触れてしまいましたが、イスラエルの停戦閣議承認が 1 日遅れたのはこの案をトランプが引き継がないことを確認するためだったのではと勘ぐりたくなります。ネタニヤフが述べた

ハマスとの確認が必要は口実で。

原油価格は週間で続伸しました。2日上昇3日下落ですが上昇日の幅が大きかった。

上昇要因はロシア制裁強化により現実に中印が中東産スポット原油に走っていること、寒波需要、トランプ関税によるカナダ産への影響懸念、米国原油在庫の連続減少、IEAが今年の超過供給予想幅を縮小しロシアやイランへの制裁強化による影響を指摘したこと、などです。上昇抑制要因は、買われすぎという市場指標によるテクニカルな売り、EIA価格予想、などです。

これからトランプに振り回される相場が続きますが、需給変動はOPEC+の生産調整が対応し価格は一定幅で動くのではないかと思います。

<2025年1月25日>

原油価格はトランプ相場となりWTIは今週\$3.22 下落しました。トランプの言動で下げ要因はロシアへの戦争終結圧力、OPECへの値下げ(増産)圧力、重関税の場合の経済への悪化懸念、米国増産方針で上げ要因は国家備蓄量引き上げです。ただし、今週の最大の下げ要因は先週までの買われすぎの是正です。今後もトランプの意図どおりに相場が動くかは不明です。精製需要減でも米原油在庫が過去3で最低になったことは下げを抑えました。

ガザ停戦は今のところ合意違反との批判応酬は起きていませんが、ヨルダン川西岸でのイスラエル軍の砲撃は酷くなりました。親イラン勢力が標的と言っておりますがパレスチナ住民を避難させ追い出すのが目的としか思えません。西岸はガザと異なりイスラエル人が国際法違反の入植を加速している地域です。

レバノンのイスラエル軍は停戦合意にヒズボラが違反しているとして軍撤退期限を過ぎても居座ると宣言しました。米仏仲介による停戦ですが、バイデンが進めた停戦なのでトランプがどう出るか注目です。